

# 景況レポ

5月分

情報連絡員 80名

## DI値は-60台を維持

～非製造業は3カ月連続で上昇～

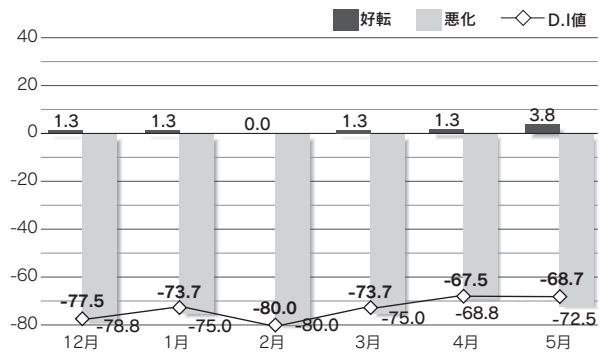
### 景気概況

5月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが3.8%（前月調査1.3%）、「悪化」が72.5%（同68.8%）で、業界全体のDI値は-68.7となり、前月調査と比較し1.2ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-81.3で前月調査（-75.0）に比べ6.3ポイント下回った。また、非製造業全体としてのDI値は-60.4で前月調査（-62.5）に比べ2.1ポイント上回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合 [前年比/同月比]



※DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							
非製造業							

### 業界の声

味噌醤油製造	4月分の出荷量は、前年同月比で味噌が131.6%、醤油が64.8%で推移した。味噌は大幅な伸びとなったが、昨年4月の出荷量が極端に少なかったことによるものである。
豆腐製造	取引先スーパーの乱売が目立ってきている。低価格での納品を求められ、業界は再び安売り合戦になっている。
清酒製造	4月分の清酒出荷量は2,011kℓで、前年同月比96.9%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で104.1%、純米酒が110.3%、本醸造酒が101.5%、レギュラー酒が94.3%という状況になっている。
繊維・同製品	景気低迷による消費者の買い控えにより、店頭売上はかつてないほどの落ち込みを見せている。例年であれば夏物衣料の売れ筋を追加生産する時期だが、発注が減少している。アパレル各社とも在庫調整、仕入調整を行っており、秋冬物の見透しもつきにくくなっている。
木材・木製品	住宅着工数の低迷が続き、市況は全般的に低調に推移しており、価格も弱含みの状態が続いている。
窯業・土石	今年度の出荷数量見込みは、前年実績比85.7%と非常に厳しい計画となっている。全県の生コン工場数は昨年より4件減少し、今年度も更に工場の統廃合が進むものと思われる。
自動車販売	5月の新車販売台数は、登録自動車が1,643台（前年同月比94.4%）、軽自動車が1,460台（同87.3%）で、合計3,103台（同90.9%）で推移した。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり116円で前月比3円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり98円で前月比1円の引き上げとなっている。灯油（配達込み）は、18ℓ宅配で1,128円で前月比2円の引き下げとなった。ガソリンの仕切価格は毎週上昇しているが、小売価格への転嫁が進まずマージン確保が厳しい状況である。
電機販売業	5月は売上高が増加した。エコポイント制度により購買意欲が刺激され、対象商品の購入が促進されたものと思われる。ただし、消費者は収入面で改善されたわけではなく、あくまでも一時的な動きであると判断される。
商店街	消費者の買い控えにより収益が圧迫されている。身の回り品、酒類は前年をやや下回った。ただ、家電はテレビに支えられ前年実績を維持した。定額給付金の影響は全く感じられない。[秋田市] 景気回復の兆しは感じられないが、4月に市が発行した地域振興券に合わせて売り出しを行ったところ、前年より売上が若干増加した店舗がある。仕掛け作りの上手さが売上に功を奏した結果である。[鹿角市]
一般建築	収益は減少傾向にあり資金繰りも厳しい状況であるが、一部の地域では受注が微増となった。